

教育に新聞を

毎週火曜掲載

▼実践▲

コラム

力試し

現場



7

「1日6・1時間」は何の数字でしょう。これは、「女子高校生の1日のスマートフォン平均使用時間」(デジタルアーツ2019年調べ)です。1日6・1時間なら1年間365日では2226・5時間になり

ます。小・中学校で1年間に学習する総時数は、ともに1015単位時間です。小学校は1単位時間が45分、中学校が50分ですから、時間に換算すると、1年間で小学校は761・25時間、中学校は821時間になります。2226・5時間をそれぞれで割ると、小学校の2・9倍、中学校の2・7倍となります。つまり、平均的な女子高校生は、小中学生が1年間に学校で勉強するおおよそ3倍の時間スマホを使っていることになるのです。

「驚くのは、家で勉強していない子どもでもスマホを持っている子どもものの平均の方が、家で2時間以上勉強するがスマホを2〜3時間使用する子どもの平均を上回ったことです。勉強した成果は消えてしまうのかもしれない。」

この調査は数年にわたり継続して行ったため、次のような結果も出ました。スマホを使っても特に悪い影響がなければ良いのですが、そうはいきません。仙台市教育委員会が7万人の小中学生を対象に行った学力調査(仙台市標準学力検査2013年)では、平均正答率とスマホアプリの使用時間の負の相関が明らか。小・中学校ともに、スマホの使用時間が長いほど平均正答率が低くなるのです。



イラスト さとうあけみ

スマホ時間減らし読書を

スマホを使っていなかった子どもがスマホを使い出すと成績は急降下。また、スマホを使っていた子どもがスマホをやめると成績は徐々に上昇するというのです。

この調査では、スマホの使用時間を1時間未満にすれば学力への悪影響が少ないことも明らかになっていますが、1時間未満に抑えるのは至難の業です。そこで現実的な方法を提案します。

せめて1日30分間スマホの使用時間を削り、その分を本や新聞を読むことにするのはいかがでしょうか。あえて「新聞」を入れたのは訳があります。文学だけの読書では、学力には十分につながらないのです。その理由は次回に。

(日本新聞協会NIEコーディネーター 関口修司)

次回は2月4日

せきぐち・しゅうじさん
1955年東京生まれ。
東京学芸大を卒業後、東京都公立小学校教員として勤務。その間(91〜2007年)、群馬大教育学部非常勤講師。北区滝野川小など3校で校長を務め、16年4月から現職。